

**「ノーサイド2」**

先日のお月見例会で、我々のテーブルで、試合前にニュージーランドチームのオールブラックスが決死の覚悟を歌いあげる出陣の踊り「ハカ」を踊っている間、相手チームはどうしているのだろうか話題になりました。

先日ニュージーランドと南アフリカ戦を見て、納得しました。

「ハカ」の踊りをゆっくり見ているのではなく、相手チームも肩を組んで自分たちの気持ちを盛り上げていました。

最近どのスポーツでも試合前には国歌斉唱が当たり前のように行われています。

この起こりは 1905 年、オールブラックスとウェールズが親善試合を行った際、ニュージーランドチームの「ハカ」に応じて、ウェールズが国歌を斉唱しました。

これが始まりで、どのスポーツでも国歌が斉唱されるようになったそうです。

本日は西宮サッカー協会の会長がお見えですがサッカーについて少し触れたいと思います。

先日の例会でもお話ししましたが、イギリスはラグビー発祥の地ですから当然盛んですが、同じようにサッカーもプレミアリーグがあり、盛んです。

「ラグビーは紳士のプレイするフーリガンのスポーツである。

一方、サッカーはフーリガンのプレイする紳士のスポーツである」と言うそうです。

ラグビーはルール範囲内とは言え、フーリガン(ならず者)の様にハードコンタクトのプレイをするけれど、一旦試合が終われば、試合中のあらゆる想い(遺恨、悔しさ、嬉しさ等のあらゆる感情)を理性で受け止め、紳士然として振舞う姿勢が当然のマナーとして求められているのが一方、サッカーはハードコンタクトが許されない等、ルールに厳格で、一応は紳士的にプレイするけれど、試合が終わっても遺恨と憎悪と傲慢などの感情を抱えたまま敵味方がストレートに罵り合う等、ならず者の振舞いがある。

サッカーに打ち込まれている瀬川さんには釈然しないかもしれませんが、イギリスではこのように言われているそうです。

瀬川さん、いかがでしょうか？益々元気にサッカーを楽しんで頂きたいと思います。